

意見陳述（要旨）



神奈川県教育委員会
教育長 花田 忠雄 様

2024年度に向けて、全日制を希望する子は全日制で、
定時制を希望する子は定時制で、通信制を希望する子は通信制で、
子どもたちが安心して学べるように、十分な条件整備をもとめる請願

2023年8月8日

かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会
事務局 保永 博行

(1) この請願で実現して頂きたいことは、「93.5%の全日制進学率の実現」です。

その理由は、

- ① 「適正な全日制進学率の実現」は「生徒の人権」であるからです。
- ② 93.5%の全日制進学率の実現は、神奈川県にとって決して不可能でないし、他の都府県とくらべても無理のない数値でもあるからです。
- ③ 93.5%は1999年の「県立高校改革推進計画」で県が県民に約束した数値であるからです。

(2) 「全日制進学率の低下」は「高等学校生徒募集計画」の失敗でもあります。2022年度89.6%、2023年度89.3%と、全日制進学率が80%台に再び低下したことに、危機感を覚えます。

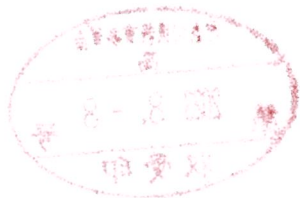
2019年度以来、公立高校（とくに県立高校と思われませんが）の計画目標値が達成できなくなってきて、それが年々拡大し、全日制進学率全体を下げています。どうして目標が達成できないのか、ていねいな検証が必要です。

中学生が、「広域通信制」を希望する傾向が強まっていると言われています。

一般的に、「通信制より定時制」、「定時制より全日制」が教育条件が良いのは当然です。しかし、中学3年生の「全日制の希望率」は年々下がって、通信制の進学率が上がっています。

「どうして県立の希望が下がってしまうのか」、「中学生がどのような状況に置かれ、どう考えて選択しているのか」の深い理解が必要です。いまの「全日制」に改善すべき点はないのか、「いまの全日制が中学生にどう映っているのか」、近年の「高校改革」が生徒に何をもたらしているのか、よく検討して、生徒の本来の希望と実態に合った募集計画を策定しなければなりません。

以上、よろしくお願い致します。



生徒募集計画と実績との違い

進学年度 年号	公立中 卒者数		全日制進学率		公立（実績）			私立（実績）			県外等（実績）			
	西暦	実績	計画	実績	進学者数	%	計画	計画との差	進学者数	%	計画	計画との差	進学者数	%
H27	2015	69,744	89.2	90.2	43,079	61.8	42,900	179	13,714	19.7	13,600	114	6,093	8.7
H28	2016	70,397	90.3	90.9	43,528	61.8	43,350	178	14,521	20.6	14,000	521	5,965	8.5
H29	2017	69,996	91.4	90.7	43,487	62.1	43,250	237	14,146	20.2	14,500	-354	5,851	8.4
H30	2018	69,140	91.1	90.9	42,824	61.9	42,700	124	14,435	20.9	14,500	-65	5,590	8.1
H31	2019	68,742	91.2	90.8	42,347	61.6	42,500	-153	14,497	21.1	14,600	-103	5,589	8.1
R2	2020	67,115	91.3	90.5	40,637	60.5	41,100	-463	14,519	21.6	14,550	-31	5,601	8.4
R3	2021	65,159	91.1	90.3	39,160	60.1	39,550	-390	14,192	21.8	14,450	-258	5,466	8.4
R4	2022	67,124	90.6	89.6	39,582	59.0	40,350	-768	15,070	22.5	14,700	370	5,459	8.1
R5	2023	68,002	90.3	89.3	39,973	58.8	40,750	-777	15,050	22.1	15,000	50	5,673	8.3

注) 「計画との差」の黒字はプラス。赤字はマイナス（不足）を示す。